

～欣浄寺法語メール～2017年11月～

「六鳥（ロクチョウ）」

不思議な体験をしました。先月の法語メールでご案内しました今月11日の還座（げんざ）法要でのことです。3月11日から仮安置していましたが御本尊をちょうど8ヶ月ぶりに修復されたお宮殿にお還（かえ）し、内陣正面でお勤めしました。その時仏さまに向かって座っているのではなく、仏さまに包まれているような感覚を覚えました。まるで、極楽浄土の真っ只中でお参りしているようなのです。それは、まばゆいばかりにいろどられた金色のせいだけではありません。眼前に置かれている前卓（まえじょく）には、極楽浄土に住むと説かれる六種の鳥が彫られています。まん中の鸚鵡（おうむ）と九官鳥が人の

言葉で語りかけてきます、「私たちの願いを受け継いで、よく本堂内陣を立派にしてくれました。」と。

かって「2階の造作は後回し」という言い回しを聞いたことがあります。家は建てるけれども全ての間取りの内装まで整える予算はないので、次の代に任せるということです。欣浄寺本堂は136年前の明治14年に再建されました。その後、瓦の葺き替え、傾きの補修、基礎の全面改修など本堂の保守維持に先人は努めてきてくださいました。そして今年、いつかは内陣を本来の荘厳に整えてもらいたいとの願いが結実しました。1つの胴体に2つの頭を持つ鳥「共命鳥（ぐみょうちょう）」が前卓の左端でさえずっています。生きた時代は違っても「いのちはつながってい

ましたね」と、先人先祖が今の私たちにやさしく語りかけているのです。

今月25日26日の両日、報恩講をお勤めします。前卓は打敷をかけますので六鳥の姿を直接ご覧いただくことはできませんが、お勤めのを六鳥のさえずりと重ね併せてお参りしましょう。